

防災グッズの展示コーナーを眺めるママ  
サロンの利用者ら



## 有事への備え呼びかける

大船渡のこぞ  
だてシンブン  
防災グッズの展示など展開

大船渡市のNPO法人こそだてシッフ(伊藤 藤恰子理事長)は、盛町のサン・リア内にあ

る市子育て支援センター「すくすくルーム」で19日(火)まで、「防災強化月間」に関わる啓蒙活動を展開している。防災グッズの展示

などを通じ、育児中の母らへ有事への備えを呼びかけている。

防災強化月間は、東日本大震災の教訓を次世代につなげようと、同法人が「乳幼児の防災」事業の一環で独自に取り組んでいるもの。2年前から、公益財団法人いきいき岩手支援財団の助成を受け、1月中旬〜2月中旬ごろを開催時期に設定している。

今年には先月23日からスタート。同ルーム内に防災グッズの展示コーナーを設け、スタッフが、同ルームを利用する母親たちに備えの必要性を説いている。

展示されているのは、赤ちゃん用の非常食やおむつ、携帯用粉ミルク、ウェットティ

ッシュ、防寒シートなど。緊急地震速報が鳴った場合の行動や、簡易おむつの作り方などを示したリーフレットも置いている。

8日は、同ルームで母子相談や妊婦相談を受け付ける「ママサロン」が開かれ、多くの親子が来場。展示コーナーを眺める母親の姿もあり、「こんな商品も売られているんだ」と知識を蓄えた。

猪川町の佐藤広恵さん(26)は、生後8カ月の息子・新汰君と一緒にサロンを利用。「缶のビスケットなど、子ども用の非常食がこんなにあるとは知らなかった。いざというときに備え、参考にしたい」と意識を高めた様子だった。